

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 3 部門第 2 区分
【発行日】 令和 6 年 10 月 8 日 (2024.10.8)

【国際公開番号】 W O 2 0 2 3 / 1 4 5 6 6 3
【出願番号】 特願 2023-576885 (P 2023-576885)
【国際特許分類】
C 0 7 D 2 4 1 / 3 8 (2006.01)
【 F I 】
C 0 7 D 2 4 1 / 3 8 C S P

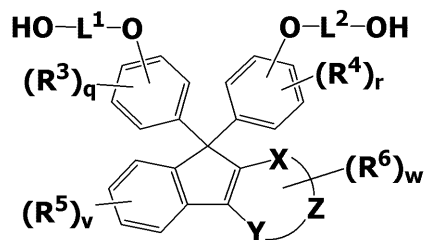
10

【手続補正書】
【提出日】 令和 6 年 5 月 23 日 (2024.5.23)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

20

下記一般式 (1) で表される化合物 (A) の溶媒和物であって、
前記溶媒和物を構成する溶媒が、炭素原子、酸素原子及び水素原子を構成原子とする環状エーテル化合物 (B) を含み、
前記化合物 (B) の比率が、前記化合物 (A) 1 モル当たり 0.05 ~ 2.0 モルである、溶媒和物。

【化 1】



一般式 (1)

30

上記式中、X 及び Y は、酸素原子、硫黄原子、窒素原子又は炭素原子を示す。ただし、X 及び Y の少なくとも 1 つは窒素原子を示す。

Z は -X-C=C-Y- とともに 5 ~ 7 員の芳香環を形成する原子群であって、炭素原子及びヘテロ原子から選択される原子群を示す。

L¹ 及び L² は炭素数 2 ~ 4 のアルキレン基を示す。

R³ ~ R⁶ は置換基を示す。

q、r 及び v は 0 ~ 4 の整数である。

40

w は 0 以上の整数であり、w の最大数は、-X-C=C-Y- と Z が形成する芳香環に置換可能な置換基の最大数である。

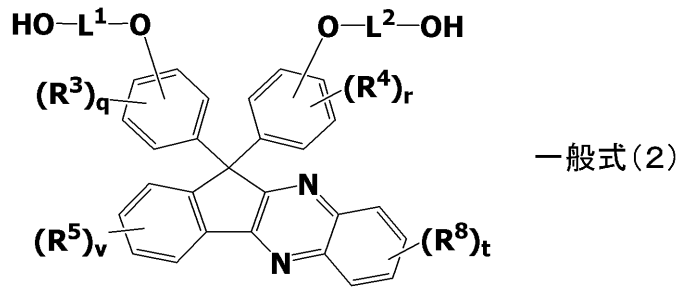
ただし、v が 2 ~ 4 の整数である場合、複数の R⁵ が互いに連結して環を形成することはない。

【請求項 2】

前記化合物 (A) が、下記一般式 (2) で表される、請求項 1 に記載の溶媒和物。

50

【化 2】



10

上記式中、 L^1 、 L^2 、 $R^3 \sim R^5$ 、 q 、 r 及び v は、それぞれ前記一般式 (1) における L^1 、 L^2 、 $R^3 \sim R^5$ 、 q 、 r 及び v と同義である。

R^8 は置換基を示す。

t は 0 ～ 4 の整数である。

【請求項 3】

前記化合物 (B) がテトラヒドロフラン化合物である、請求項 1 又は 2 に記載の溶媒和物。

【請求項 4】

請求項 1 又は 2 に記載の溶媒和物の製造方法であって、

前記化合物 (A) が前記化合物 (B) を含む溶媒に溶解している溶液から、前記化合物 (A) を晶析することを含む、溶媒和物の製造方法。

20

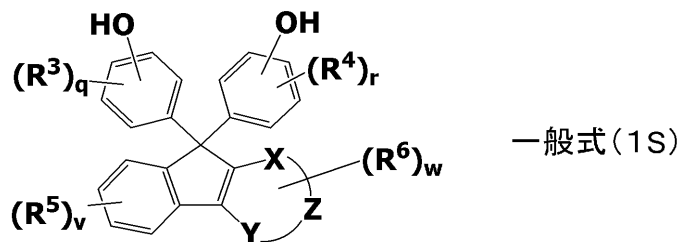
【請求項 5】

前記化合物 (A) が前記化合物 (B) を含む溶媒に溶解している溶液について、吸着剤を用いた不純物の吸着処理工程を行ったのちに、前記化合物 (A) を晶析することを含む、請求項 4 に記載の溶媒和物の製造方法。

【請求項 6】

塩基性化合物の存在下で、下記一般式 (1S) で表されるビスフェノール化合物と環状炭酸エステル化合物とを反応させて前記化合物 (A) を製造することを含む、請求項 4 に記載の溶媒和物の製造方法。

【化 3】



30

上記式中、 $R^3 \sim R^6$ 、 $X \sim Z$ 、 q 、 r 、 v 及び w は、それぞれ前記一般式 (1) における $R^3 \sim R^6$ 、 $X \sim Z$ 、 q 、 r 、 v 及び w と同義である。

40

50